

難民キャンプの子供たちは、いまこの世界をどう生きているか

「ロヒンギャ」とは、ミャンマーのラカイン州で暮らしているイスラム系少数民族のことを指します。ユニセフによると、迫害等によって 2019 年までに、ミャンマーからバングラデシュに逃れた「ロヒンギャ」の人々は 90 万人以上。そしてその半数以上が 18 歳未満の子供だと言われています。国家によって保護されることのない彼らは、生活・衛生・教育など様々な面で、子供としての権利を保障されないまま、難民キャンプ等で制約の多い日々を過ごしています。なぜ彼らは迫害されるのか。感染症の流行は彼らの生活にどのような影響を及ぼしたのか。日本ではなかなか関心が高まらない「ロヒンギャ問題」について子供と、子供が象徴する未来の視点から取り上げ、現在行われている支援が有効と言えるのかどうか、東南アジアの近現代史を専門とする講師からコメントしていただきます。すべての子供たちの未来をともに考えてみませんか。

講師：根本 敬（ねもと・けい）
上智大学総合グローバル学部教授

1957 年生まれ。専門は東南アジア近現代史、ビルマ地域研究。国際基督教大学教養学部卒業。同大学院比較文化研究科博士後期課程中退。東京外国語大学教授を経て、2007 年 4 月より現職。著書に『抵抗と協力のはざまー近代ビルマ史のなかのイギリスと日本』（岩波書店 2010 年）『アウンサンソーチーのビルマ民主化と国民和解への道』（同 2015 年）ほか、多数。



トークゲスト：新畑克也（しんばた・かつや）
フォトグラファー

1979 年生まれ。2010 年に初めて訪れたミャンマーに魅了され、同国へ幾度も通い、旅先での人々との出逢いを写真に収め始める。2015 年に西部ラカイン州でロヒンギャの村を訪れたことをきっかけにロヒンギャやラカインの問題に関心を持つ。以降は主にラカイン州やバングラデシュの集落、難民キャンプで撮影や取材を続けている。

同時開催：ユニセフ写真展
長谷部誠大使 ロヒンギャ難民キャンプ
訪問 ～未来を切り拓くために～



人権プラザ
ロビーギャラリー
にて
11月28日～
12月12日

© 日本ユニセフ協会 / 2019/tetsuya.tsuji

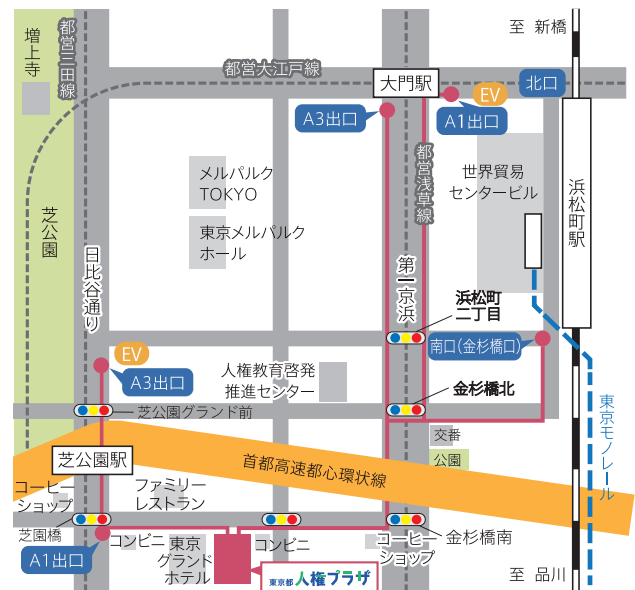
2019 年 6 月、ドイツのプロサッカーリーグ（ブンデスリーガ）で活躍する日本ユニセフ協会大使の長谷部誠選手が、世界最大級といわれるバングラデシュの難民キャンプを訪問しました。写真パネル 15 枚でその活動を振り返ります。

会場案内

都営三田線
「芝公園駅」A1 出口
から徒歩 3 分
都営浅草線・
都営大江戸線
「大門駅」A3 出口
から徒歩 7 分
JR 線・
東京モノレール
「浜松町駅」金杉橋口
から徒歩 8 分



地図ページ
QRコード



申込フォーム

- ・下記ご記入のうえ、ファックスまたは E メールにてお申し込みください。
- ・応募者多数の場合は抽選となります。
- ・ご提供いただいた個人情報は、申込手続き以外使用しません。

Eメール fukyu3103@tokyo-jinken.or.jp

FAX 03-6722-0084

①お名前（代表者）	フリガナ	参加人数	名
②ご連絡先 (いずれかお選びいただき、 ご記入ください。)	電話	FAX	
	メール	@	
③受講票送付先	〒		
④託児の希望 (会場参加者のみ)	※情報保障については お問い合わせください。	有・無	性別 年齢 人数 才 名
			⑤オンラインでの参加を 希望する・希望しない (どちらかに○を付けてください)

ご来館に当たりましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策にご協力いただきますようお願いいたします。
詳細は東京都人権プラザホームページでご確認ください。